

- 1 派遣期日 平成29年8月28日(月)
- 2 研修先 筑波大学附属小学校
所在地 東京都文京区大塚 3-29-1
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

- 3 研修内容 考え、議論する道徳シンポジウム～主体的・対話的で深い学びを実現する！～
(1) 実践発表

① 問題解決的な学習の実践

(豊島区立豊成小学校 東京学芸大学大学院 木村隆史先生)

「自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「体験的な学習」のどの手法を用いる場合でも、ねらいとする価値を定め、児童生徒の実態に合わせたうえで教材の良さを引き出す計画を立てる必要がある。

② テーマ追求型問題解決的学習

(埼玉県和光市立第五小学校 古見豪基先生)

問題解決的な学習では、課題(問題)状況の把握をする際に既成概念とのズレを起こす必要がある。そのうえで根拠を明確にした判断として「行為としての選択」を迫る。行為の裏にある心の本質を考察することで合意・了解・納得を図る。



③ p4cの手法を活用した問題解決的な学習

(愛知県一宮市立浅井中学校校長 山田貞二先生)

Philosophy for children (子どもの哲学)の考えから、児童生徒自らが立てた問いを主体的に探求するための手法を道徳に取り入れた実践発表。ブレインストーミングと話し合いで決めた問いに対して、生徒自身がその解決に向かえるよう、教師はファシリテーターに徹する。問いの質が高ければ、探求が深まる。また、道徳の中でも単元を位置づけ、あるテーマに対して計画的に数時間授業を行う。ゲストティーチャーを活用するとリアリティの導入に効果的だが、招く際には事前の綿密な打ち合わせが必要である。

(2) 提案授業

話し合い活動の際に「個人内葛藤」と「他者間葛藤」が引き起こされることで知識が共同構築されていくという先行研究をもとに、「児童」と「教材の登場人物」との間や「児童同士」の間で葛藤を生み出すような展開にすることで道徳的価値と学習意欲を高める工夫をしていた。

「個人内葛藤」とは、子ども自身がもっている考え方と対象の間に生まれる葛藤を指し、「他者間葛藤」とは、ある対象を介して自分の知識や課題解決方略と他者のそれとの間に生まれる葛藤を指す。

つまり、自分と登場人物の間でのズレを感じさせ、その後に、課題解決について自分と友達との間でのズレを感じさせることで知識を共同構築できる。

(3) シンポジウム

明治大教授の諸富祥彦先生からは、「道徳科の授業は道徳的価値という観点をを用いて問題について考えるのであって、道徳的価値について考えるのではない」というお話を伺った。「友情」や「思いやり」について考えるのではなく、そういった観点をを用いて現実の問題について考えていくような授業を展開したい。

また、「あなたならどうしますか」という問いが道徳科の授業で聞かれるが、それでは「自分ならどうしてしまうか」という思考を生んでしまうというお話を伺った。自分事として考

える今後の道徳の発問の仕方としては、「あなたなら何ができますか」という問いをすべきである。

「どんな気持ちで～したか」という発問もよく聞かれるが、これは「気持ちの読み取りの発問」であって、道徳的価値に迫れるものではないというお話を伺った。この発問を「できることには何があるでしょうか」という「できること探しの発問」に変えるだけで、従来型の読み取り中心の授業を、問題解決型の授業に変えることができるという。

武庫川女子大教授の押谷由夫先生からは、評価についてのお話をいただいた。今後、道徳が文章での評価になっていくことを考えると、授業ごとの評価のために、「授業で気付いたこと、発見したこと、確認できたこと、納得できたこと」などをワークシートに書けるようにしておくとうい。また、授業態度(しっかり考えたか、思っていることを発表できたか、友達の意見をよく聞いたか、心に残った言葉は何か)などについても4択などで聞きたい。

教師側の評価としては、ねらいにかかわる一人一人のよさをメモしておく必要がある。

また、学期の終わりに、学期の道徳の授業をリストアップして心に残っている授業ベストスリーを挙げさせ、理由を書かせることが個人内評価に大いに役立つ。

通信票、道徳科の記述欄イメージ

個人内評価を記述する。個人内評価は、個人の突出した良さを認める横断的な評価(～でした)と、個人の進捗の状況を認める縦断的な評価(～になりました)の2種類がある。

各 単 元 の 学 習 の 記 録									
単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
83									
84									
85									
86									
87									
88									
89									
90									
91									
92									
93									
94									
95									
96									
97									
98									
99									
100									

文科省調査官小野賢志先生からは、教育課程における道徳科の位置づけについて伺った。今後、道徳科にも教科書が指定される。他教科と同じように、教科書を使えば内容項目をすべて押さえられるようになっていく。そのため、教科書を使って、指導事項を指導していくのが一般的な流れになっていく。ある価値について、教科書でなく他の教材で代用することも可能だが、特定の価値を扱わないことは許されない。

筑波大付属小教諭の山田誠先生からは、道徳科のアクティブラーニングについて伺った。「(アクティブラーニングについて)形だけを追いかけても上手くいかない。4人組で話し合うからといってアクティブラーニングとは呼ばない。」という言葉が印象的だった。参考までに、筑波大付属小のアクティブラーニングは以下の3つの手順で行う。

- ① 問題について4人組で話し合い、ミニホワイトボードにまとめる
- ② 終わった班から黒板に貼る
- ③ 貼られたものを分類、仲間分けする(全体での合意形成)

その他にも、「徳目(内容項目)、キーワード自体を教え込む授業になってはいけない。」という話や、いじめをテーマにした授業を行う際には、生徒の多様な意見に注意する必要がある、「いじめは絶対に許されない」という前提がある以上、価値の押しつけになったとしても、教師の気持ちや意見をはっきり伝えるべきであるというお話を伺った。

4 感想

- 道徳科について研修を深めるにあたって「考え、議論する道徳」をテーマに視察先を探した。道徳に関する講演会にはいくつか参加させていただいたが、公開授業やシンポジウムは普段参加する機会がなかったので大変興味深い内容だった。
- これまでは教材の人物について考える授業や、道徳的価値そのものについて考えるような授業を行っていたため、児童・生徒の学習が深まるための実践的な手法を知ることができてよかった。
- 全国各地から多くの教員が参加しており、小・中学校の道徳に対する研究の熱を感じられ、自分としても良い刺激になった。また、質疑応答の内容から、自分がまだまだ勉強不足だということを実感した。勤務校への伝達はもちろん、授業力向上のために今後も研修を重ねていきたい。